

南無阿弥陀仏は
私のいのち

平成29年
5月号

NO.
472

えこお

5

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL. 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
http://saitokuji.tobihiro.jp/
発行人 脇阪 義幸
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



鯉のぼり

ゴールデンウィークともなると全国の観光地が多くの人で賑わう。そもそもこの大型連休は、憲法記念日・みどりの日・こどもの日等を合わせて出来た休日ということは周知のとおりだが、それぞれ祝日として定められた経緯や願いというものを改めて尋ねたことがなかったように思う。

その中でも「こどもの日」にはお世話になったというとな妙な表現になるが、私にとって祝日の中でも一番身近であり、楽しみにしていた日でもあった。どこか主役になれるような一日でもあり、叱られない一日でもあったと記憶している。

当時はそのように感じていたことが、今になってみると、親が子供の成長を願って下さる大切な日であったのではないかと思わされる。これから世間に出ていく私へ、こどもの日に見かける鯉のぼりを通して、向かい風こそ泳ぐ力とする在り方に、実は大きな意味があることを教えてくれたのかもしれない。

順風満帆の人生を望むものの、向かい風なくして人生も無い。悩みや苦しみ悲しみは避けようのないものであるが、偶々頂戴した「いのち」を、改めて尋ねていく機(きっかけ)として与えられているのではないだろうか。鯉のぼりが泳ぐ姿は、思いもよらない向かい風を受けてこそ、生き生きとしていたことに改めて驚かされる。

(大橋 伊知郎 記)

去る3月22日(水)、西徳寺本堂におきまして
しゅんきえいたいきょうほうようほんざんさしむけふきょう
 「春季永代経法要・本山差向布教」が勤まりました。
 今回で縁をいただいた布教使は滋賀県・長浜市・
ぜんりゅうじ
 善隆寺のご住職、和藏順人師でありました。

ご講題に「生死の苦海ほとりなし ひさしくしず
さんだいしやうじくかい
 めるわれらをば 弥陀弘誓のふねのみぞ のせてか
みだぐぜい
 ならずわたしける」という『高僧和讃』の一首をいただき
こうそうわさん いっしゆ
 ね、寿命の長い短だけを較べてみたり、いただいた人生を自分の思い
 通りにしようとする生き方を「生死の苦海」という言葉であらわされ、阿弥陀仏はこのような私たちを本願の
 船に乗せて、迷い多き人生を必ず渡らせることを誓っておられるのだと述べられました。

京都大学の第16代総長を務められ、脳神経解剖学の第一人者といわれた平澤興氏が詠まれた「けさもまた
 ためて目も見え手も動く ああ極楽よ この身このまま」という詩を紹介され、ご自身が水頭症を患い、
 手足に麻痺が出たときに、それまでは死の問題を他人事にしか受け取ることが出来なかった自分自身がこの
 詩によって照らし出され、今日といういのちをいただいております尊さに改めて気づかされたことと仰いました。

「北辰一刀流」の創始者である千葉周作のエピソードに、漁師の家に逗留していた時、松明を明かりに引き
 潮で夢中になって漁をしていた漁師が、いつの間にか満ち潮になり海岸の方向が分からなくなったとき、周作
 に「千鳥が海岸に向かって飛んでいく習性ある」教えられ、千鳥の鳴き声を頼りに岸まで辿り着いたという。岸



に戻った漁師に網元が「帰路に迷ったときは松明を消せ。松
 明は自分の足下、狭い範囲しか照らすことができない」と諭さ
 れた。人生も同様で、道に迷ったときは松明を捨てる。それは
 腹立ちの心、欲の心、愚痴の心で一杯の、独りよがりの私であ
 ったと、よき人の仰せによって気づかせていただくことだと教
 えてくださいました。

お念仏の教えは「松明を消せ」というよびかけ、我が身の愚
 かさを知りなさいという仏の仰せということであり、これから
 もお互いに仏法聴聞の日暮らしをすることが肝要であるとお
 話くださいました。
 (木村 専正 記)

西徳寺保全工事 進行状況のご報告



1階「半月の間」天上 配水管



2階「梅檀の間」前 厨房

現在第一会館の外
 壁、水回りおよびトイ
 レを修繕中です。水回
 りは5月の連休明け
 に完成する予定です。
 皆様に快適に使っ
 ただけるように、
 着々と進行してしま
 す。ご理解とご協力を
 宜しくお願い申し上
 げます。

親鸞さんのことば

定散諸機各別の

自力の三心ひるがえし

如来利他の信心に

通入せんとねがうべし。

『浄土和讃(観経意)』

松井憲一

「鯉のぼり、羽ばたくときは 向かい風」。五月の空、颯爽と風を切つて泳ぐ鯉のぼりの姿は、老いぼれの身にも勇気を与える。それは、風の吹くままに、無心に泳いでいるからである。鯉のぼりは、いつも風にまかせているだけで、自分は無力なのである。風がなければ、ダラリと垂れ下がっているが、それは鯉の滝のぼりのようにも映る。われらは、いつも順風を好み、逆風を嫌うことで、世界を狭くして、愚痴っているのではないか。もともと無力である者が、力んで思い通りにしたいとしているのではないか。「そんな生き方で大丈夫なの」と無力のまま泳ぐ鯉たちの声が聞こえる。

前号で、逆誘闡提の救われる道は、阿弥陀仏の本願を憑むほかないという親鸞聖人のお言葉は、わたしたちの依頼心でないといいた。このご和讃は、善導大師の教えを受けた聖人が、憑むというただき心を明らかにされるところです。「定散」とは「定善」と「散善」のことです。「定善」は、心をしずめて念仏する人のことで、「散善」は、散る心のまま善いと思うことを励んで念仏する人のことです。この人々（諸機）の行いに共通するのは、自分の思いで行うことです。「各別」とは、自分の思いでする行いですからその人その人で、違っているというのです。

「三心」とは信心のことです。「自力の三心」とは、現状を受け取ることができず、苦しみ悩みがないようにと、誠意あるまじめな心（一者至誠心）で、そして深い心で懸命に励み（二者深心）、つんだ善根功徳を捧げて浄土に生まれたい（三者回向発願心）と願う心です。だから、「自力の三心」は、個々別々の信心になります。思い思いの信心は、「古いもの 買い取りますに 妻と目が」と同じ心になることがありません。独りよがりの信心は、人と比べて高慢になつたり卑下したりして、心を狭くし暗くしていきます。

このような、自分の思いの信心から解放されなければ、同一の信心、「俱会一処」といえるような明るさに恵まれることはありません。それで「自力の三心ひるがえし」といわれるのですが、明るくなるために自分の思いの信心を「ひるがえし」て解放されようと思うのも、自分の思いの中の出来事ですから、自力で「ひるがえし」を実現するのは、不可能といわねばなりません。それで「如来利他の信心に 通入せんとねがうべし」といわれるのです。

「利他」の「利」は、阿弥陀仏のことです。「他」はわたしたちのことです。起る心であつても、わたしの自我の心ではありません。他の人々をすべて救わんと立ち上がられた法蔵菩薩の願心、阿弥陀如来の心です。「如来利他の信心」は、聖人が「そくばく（たくさん）の業をもちける身にてありけるを、たすけんとおぼしめしたちける本願のかたじけなさを（『歎異抄』）」と述懐されたように、自分の思いや努力では乗り越えられないわたしが、まごど救わんとする本願のかたじけなさに動かされて、頭の下がり切った心です。それは、下がったと思う心も破られた「如来よりたまわりたる信心（『歎異抄』）」他力の信心の事実です。

『観無量寿経』は、登場人物だけでなく未来世の衆生を救うところにあると見定められた聖人は、エゴのまじる信心をひるがえすご縁に出遇つても、凡夫であることは変わりませんから、「如来利他の信心に 通入せんとねがうべし」と、如来の心に通入することをお勧めくださるのです。



山門の言葉

今を生きずに いつを生きる
ここを生きずに どこを生きる

本願寺派 光林寺前住職 おおが しんしょう 大神 信章

学生だった時、結婚した時、子供が生まれた時、そして三十代になり子供が二歳になった今、共通して言われている言葉が「今が一番いい時だよ」である。

たしかに思い返せば、その時はその時でいい思い出もあるが、「今が一番だ」と言われると、この先はいいことがないように聞こえ、なかなか願けない。私自身、過去の思い出と未来の不安にとらわれ、今を生きていないように感じる。

そんな時にふと、二年前の法語カレンダーにあった大神信章氏の言葉が浮かんできた。この山門のことはあるが、「今を大事にしなさい」という道徳的な意味や、今がよければそれでいいという短絡的な意味ではない。今、ここ以外にどこを生きるのかというのである。

私が生きているこの今は、私が到底思いはかることのできない過去か

ら賜っている。そしてその今において初めて未来が開かれる。その事実を昔から他力(如来)といい、南無阿弥陀仏として称えてきた。

私たちはその事実を生きていながら、自分の思いの中で今、ここにいる私を評価し、迷い続けている。思いの中に私がいるのではない。私が今、ここにいないことが、間違いない、かけがえない事実なのである。

その今、ここを生きていることを当たり前にし、自分勝手な理想をかがけて日々過ごしている。そんな痛ましい私を、純粋な事実に立ち帰らせる言葉が今月の言葉であり、南無阿弥陀仏なのである。南無阿弥陀仏から常に今、ここ、死んでいける今を賜るのだ。

(仲井真裕記)



日誌

- | | |
|-----------|--|
| 3月11日 | 定例聞法会 |
| 3月12日 | 城北ブロック会聞法会(王子・北とぴあ 参加者18名)
混声合唱団「エコー」練習 |
| 3月15日 | 婦人会聞法会 |
| 3月17日～23日 | 春季彼岸会 |
| 3月22日 | 春季永代経法要・聖徳太子奉讃会 本山差向布教
布教使 和藏 順人 師 |
| 3月24日 | 『唯信鈔』に聞く 講師 宗正元 師 |
| 3月27日・28日 | 宗祖忌 |
| 4月6日 | 責任役員会 |
| 4月7日・8日 | 中興忌 |
| 4月8日 | 同行会総会・「現代の聖典」に聞く 法話 高橋 淳 |





第331号

婦人会専用口座：
名義 西徳寺婦人会
番号 10030 239 82431

※婦人会総会報告は、6月号の「えこお」に掲載させていただきます。

次回聞法会のご案内

日時 29年5月17日(水) 午後1時～3時
場所 西徳寺 梅檀の間
法話 法語カレンダーに聞く(真宗教団連合カレンダー)
「大信心は仏性なり 仏性すなわち如来なり」
最高顧問 大谷 義博
蓮井 邦宗

「えこお」掲載予定の婦人会だよりの内容

6月号	……	総会報告
7月号	……	5月聞法会
8月号	……	6月聞法会
9月号	……	7月聞法会
10月号	……	8月聞法会
11月号	……	9月聞法会
12月号	……	10月聞法会
1月号	……	11月行事報告
2月号	……	12月聞法会
3月号	……	新年会報告
4月号	……	2月聞法会

※(掲載内容は変更する場合があります)



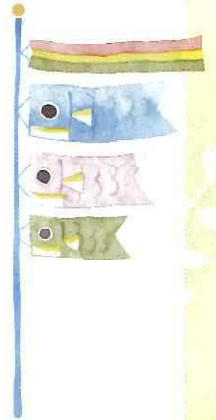
掲示板

平成29年5月

- 13日(土) 午後1時 **社交ダンス練習会**
午後3時15分 **混声合唱団「エコー」練習**
午後6時 **同行会「現代の聖典」に聞く**
法話 蓮井 邦宗
- 17日(水) 午後1時 **婦人会間法会**
20日(土) 午後1時半 **定例間法会**
21日(日) 午後2時 **城南ブロック会総会・間法会**
(大井町きゅりあん)
- 23日(火) 午後7時 **仏教青年会 『歎異抄』に聞く**
講師 宗正元 師
- 25日(木) 午後1時半 **『唯信鈔』に聞く**
講師 宗正元 師
- 27日(土) 午後1時 **社交ダンス練習会**
午後3時15分 **混声合唱団「エコー」練習**
28日(日) 午後2時 **城西ブロック会総会・間法会**
(中野商工会館)

えこお志お礼

- 福生市 木野村 幸彦 様
板橋区 木下 好江 様
坂戸市 佐藤 公志 様
鎌ヶ谷市 鈴木 秀夫 様
練馬区 関本 淑子 様
荒川区 高崎 博 様
柏市 成茂 彰 様
松戸市 野坂 敏明 様
墨田区 星野 登代子 様
港区 安井 均 様
世田谷区 山瀬 一枝 様
川崎市 大野 和子 様
山梨県南都留郡 円谷 清子 様



ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

同行会総会

平成29年4月8日(土)5時45分より、キャラの間に於きまして平成29年度「同行会総会」を開催し、平成28年度事業報告・会計報告、平成28年度事業計画案の承認を頂きました。

同行会は毎月第2土曜日、午後6時～7時半に行っております。どなたでもご参加頂けますのでお気軽にお越し下さい。

(大橋 伊知郎 記)




編集後記

友人のご両親の馴れ初めを聞いてビックリ、旅先で道を訪ねた男性に後日、別な旅行で再会したことがご縁となり交際が始まり、めでたく結婚の運びとなったそうです。不思議なご縁といわれますが、あまりの偶然に驚かされました。

良縁と受け取れるときには不思議と感じられますが、受け入れがたい現実が悪縁だと納得がいきません。いずれにしても、人生は様々なご縁によって成り立っているのだと仏法は教えてくださいます。(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：

 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。
(メールでも結構です)

 saitokuji@ce.wakwak.com